東京蜘蛛談話会
談話会通信
2013年
9月30日
No. 139

2013 年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時　2013 年 12 月 8 日(日)　10 時より(開場 9 時 30 分)
2. 場所　東京環境工科専門学校　〒120-0022　東京都墨田区江東橋 3-3-7
   JR 総武線　東京メトロ半蔵門線　**錦糸町駅南口**から徒歩 3 分
   今年度から場所が変わっておりますのでご注意ください
3. 連絡　当日は，東京環境工科専門学校の電話が使用できないので，緊急時には以下に連絡ください.
   加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他　プロジェクター，OHP 等用意いたします.
5. 講演をご希望の方は，演題と使用希望機材
   (スライド，OHP，コンピュータ)
   を事務局初芝までお知らせください.

〒186-0002 東京都国立市 3-10-8　コンフィデンス高垣 105
有限会社エコシス　初芝伸吾
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
Tel : 042-501-2651　Fax:042-501-2652

●錦糸町駅南口から徒歩 3 分です.

東京蜘蛛談話会 2013 年度採集観察会

1. 期　日：第 3 回 2013 年 10 月 6 日(日)　第 4 回 2014 年 2 月 16 日(日)
2. 場　所：埼玉県日高市　西武池袋線高麗駅～日和田山
3. 集　合：西武高麗駅改札前午前 10 時
   高麗駅から日和田山まで徒歩で採集しながら移動します.
4. 世話人：平松毅久・仲條竜太
   連絡先：平松携帯 080-6633-2737

※　9 時台高麗駅着の秩父方面行きは 2 本しかありません
（9 時 27 分，9 時 50 分）.
駅前と途中に 1 軒ずつコンビニがあります

7 月合宿の感想文

本多佳子（広島県廿日市市）

2013 年 7 月 19 日(金)～21 日(日)，東京蜘蛛談話会の夏合宿に参加しました．広島在住の私は距離の関係上，定期的な観察会にはなかなか出られないので，合宿は皆さんとお会いできる貴重な機会です．当然(?)会社を休み，意気揚々と東北は南三陸へと向かいました．ちなみに広島から東京までは新幹線で 4 時間なので，仕事後に移動して東京に一泊すると移動が少し楽です．

くりこま高原駅から車で 2 時間移動し，南三陸町に到着しました．2011 年の震災以降，津波の被害を受けた場所へは初めて訪れたのですが，平地には建物の枠がわずかに残っているだけで，何も無いのが津波の跡なのかと実感させられました．大学時代に伊豆沼へ鳥見に来たことがあり，駅前にあったウタちゃんの橋を覚えています．その周囲も景色がすっかり変わっていて，同じ場所とはとても信じられませんでした．

民宿「やすらぎ」の食事

現地では小雨が降っており，3 日間大丈夫かなぁと不安なスタートでした．そして…寒い！汗をかいた時用に着替えシャツ

は用意していましたが，防寒着は一枚のみ．夏でも気温を確認して出かけなければ，と反省しました．また民宿「やすらぎ」の食事は地元の海と山の幸がたっぷり入ったごはんでした．中でも三陸のわかめは肉厚で歯ごたえがあり，お土産に買ってしまうくらい美味しかったです．

初日の夜間観察は小雨で肌寒い中，田んぼの脇で観察をしました．卵のうが分かりやすい場所に沢山あり，カラカラグモは横糸にくっつくように，ヤマトカナエグモは枝が長い．．．と新海さんから見分け方を教えて頂きました．

２日目からは雨も上がり，観察日和に．出発前に宿の女将さんから，大震災の津波の様子を伺いました．２年が経過して過去のことと感じてしまう今日，大津波が実際にやってきた事実や今も復興に向けて頑張っている人がいることを，こうした機会を通じて関心を持ち続けなければと感じました．午前中は八幡さんのお宅のあるさえずりの谷へ．テントの周りには立派なチュウガタコガネグモやコシロカネグモが網を作っており，とても素敵な場所でした．午後は行者の道～クモ滝へ．看板によると，昔土蜘蛛がいて行者を困らせたことからその名前がついたとか．その日はなんとこのクモ滝で，八幡さんが宮城県初記録となるシノ

さえずりの谷

アズマキシダグモのメスと卵嚢

糸を飛ばすコハナグモ

クモ合わせ

ビグモの雌と卵のうを採集されていました！流石です．夜は宿の周辺を散策．アズマキシダグモの母グモと子グモのまどいが見られました．海と星空もとても綺麗で，あの津波の光景と同じ場所とは信じられないくらいでした．

3 目は田束山へ．春のようなぽかぽか陽気で，ワカバグモやコハナグモなどが観察できました．昼食後には晴天で名残惜しい中での解散．．．

談話会の方々とクモ観察のできる３日間，毎年のことですがとても幸せな一時を過ごさせて頂きました！また突然観察会などに参加するかと思いますが，今後もよろしくお願いします．

タイプ産地のキシノウエトタテグモ

谷 川 明 男

2013 年 7 月 23 日，キシノウエトタテグモのタイプ産地（記載の元となったタイプ標本の産地），東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）でその生息を再確認することができました（論文中には採集地は東京大学本郷キャンパスとの記述になっていますが，採集者の笹岡さんのお話では，採集地点はピンポイントでは山上会館と三四郎池との間であるとのことです）．今回捜索を行ったのは，医学部２号館前の庭で，この場所では，1989 年 6 月 17 日にも東京蜘蛛談話会の有志による捜索が行われ，その生息が確認されていました．

東京大学ではこの場所を再整備する計画があり，当該地がこのクモのタイプ産地であることから，今でも生息しているのかどうか調査をしてほしいとの依頼が宮下　直さん

東京蜘蛛談話会の会費は，一般 3800 円，学生 2000 円です．
郵便振替口座　00170-8-74885　東京蜘蛛談話会へお願いします．
会費のことは：会計担当　須黒達巳
〒305-0821 茨城県つくば市春日 4-10-5　春日ビューハイツ B101
TEL：045-641-0763　E-mail：t.s.schlegelii@gmail.com

を通じて来たのです. 私はここがキシノウエのタイプ産地であることを大学が知っていることにちょっと驚きましたが，三四郎池周辺の改変計画が持ち上がったとき，理学部と農学部の有志で大学構内の自然環境保全運動が行われ，そのときに本郷キャンパスがキシノウエのタイプ産地であることを主張したことがあるので，それが大学側に記録されていたのかもしれません.

当日昼前，担当の事務の方々３名とともに現地でキシノウエの捜索を行いました．今回，直接改変されるのは現在芝地になっている部分で，樹木は移動させないとのことでした．それであればキシノウエには影響はないだろうと判断したのですが，念のために該当部分について探してみました．案の定，その部分ではキシノウエは全く見つかりませんでした．将来的にはサツキの植え込みに手を付ける計画であるとのことで，そこも見てほしいとのことでした．これはまずいですね．サツキの根元はキシノウエの好きな場所ですから．案の定，探し始めてすぐにたて続けて２つの扉があり，さらにキシノウエを見るのも初めてという事務の方も扉を見つけました. サツキの根元にはキシノウエが生息し続けていました．造網性のクモや徘徊性のクモであれば，破壊されたときに自力で移動することはできても，地中生活者のキシノウエにはそれはできませんので，サツキを取り去ってしまえば致命的ですとの予測を伝えておきました.

キシノウエトタテグモはかつて，農学部キャンパスのサッカー場わきの石垣にもたくさん生息していました．しかし，石垣の改修工事が行われ，以前は石の間が土だったのに対して，新たな石垣ではコンクリートで固められてしまったためにキシノウエは全く見られなくなってしまいました．また，農学部３号館の北側にもキシノウエの巣がいくつか見られましたが，こちらは車いす用のスロープの設置工事で地面がコンクリートになって見られなくなりました. 関東平野ではまだまだキシノウエはとてもたくさん生息していますが，このような生息環境の改変はどこでもじわじわとおこり，キシノウエの生息地は少しずつ削られ続けているのではないでしょうか.

入退会は：事務局　初芝伸吾　〒186-0002 東京都国立市 3-10-8
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス
E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：谷川明男　247-0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416
E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp
通信の原稿締め切りは，4 月総会まで，8 月末，12 月末です.

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明　258-0018　足柄上郡大井町金手 1099
E-mail：fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp
キシダイアの原稿締め切りは，6 月末日と 12 月末日です.

※　会員の皆さんからのご投稿をお待ちしております.

ハエトリグモ

加藤康子

夏の日に
ぼくは 人間に出会った
地面の上を
ゆら ゆら ゆらと
不思議な均衡で歩いている
二本の足は 太いけれど
とても 人間に似合っている
揺れながらも
地面に しっくりと
足裏は 押しつけられ
その形を 感じながら
かわるがわるに 足を出して
歩いてゆく
もどかしく
ゆるやかで
楽しげな 歌のように
歩いてゆく……
でも
ぼくは ちがう
ぼくには そんな時間はない
こんな夏の日は
短い 生命の夢を
ひたすらに 跳び 走り
出会い つかまえる

輝く糸を 繰り出して
ぼくは 草の上を越えた
振り返ると
人間は
うっとりと ぼくを見つめ
笑っていた